

## 阿蘇山麓の白川水系最上流域

# 水源涵養森づくり

来月11日  
植樹開始

## 各地の土改区が連携

阿蘇山から有明海に流れ込む白川水系の最上流一域で、長期的な広葉樹の森づくりが計画されている。

農地整備や農業用水の維持・管理をしている同水系沿いの熊本、菊池、阿蘇地域の土地改良区で組織する水土里ネットが連携し、3月11日に最初の植樹をする。

広葉樹の森は、阿蘇・高岳（1592㍎）北側のふもと、阿蘇市一の宮町の日の尾原野約20㍎のうちの約5㍎。粗飼料の採草地だが、10年以上放棄されていた。

計画では、地元の牧野組合と20年間の使用契約を結び、5年続けて苗木を植樹する。樹木の管理も続け、水源涵養林「水土里ネットの森」と名付ける。森からは北外輪山も眺望できる。多くの人が

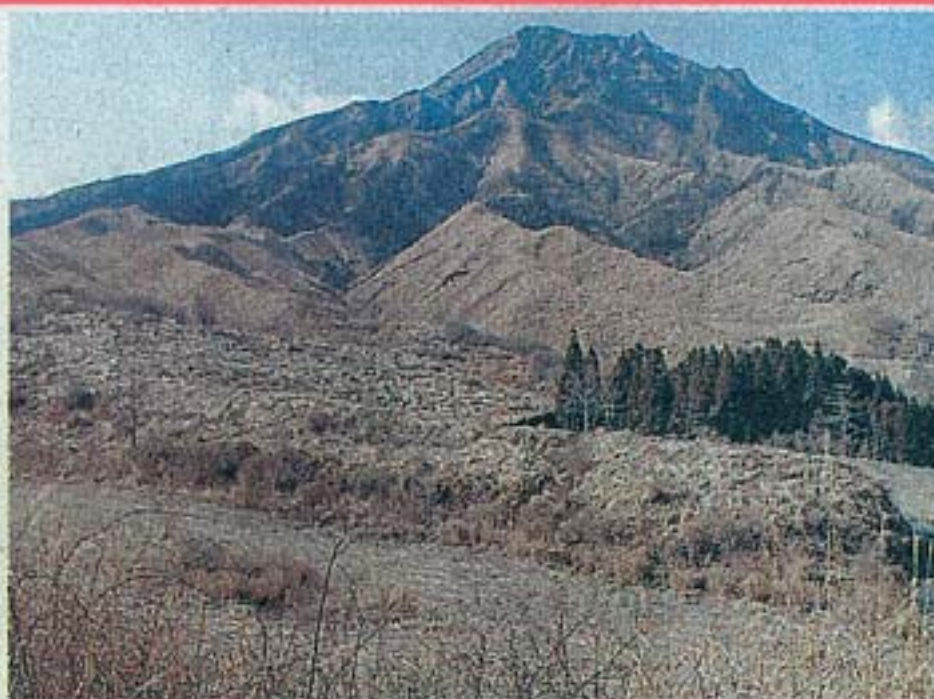
が楽しめるように遊歩道とベンチ、東屋などを備えた憩いの広場も造る。

阿蘇市から南阿蘇村、大津町、菊陽町、熊本市と流れ、黒川、白川などと名を変える白川水系の総延長は約146㍎。流域には計31の土地改良区があり、水源を守り育てるために広域的に連携するのは初めてという。

3月の植樹は約1㍎。

水土里ネットのメンバー約150人が参加し、モミジ、ヤマザクラ、ケヤキ、コナラなど計2千本を植える。苗木購入費などは今年度、県から100万円の補助を受けた。

植樹後、「黒川・白川河川上下流域水土里ネット連携協議会」を立ち上げ、森の長期的な維持・管理に当たるといふ。



水土里ネットの森となる原野。後方は高岳＝阿蘇市一の宮町宮地で